

探訪 チャレンジ企業 21

新しき伝統産業の創設 絲藝苑：門前町



自然の恵みを活用

自然を敬愛し、自然の恩恵に感謝しつつ、自然との共生に意欲的に取り組み、自然からの贈りもの即ち紬（糸）を用いて、一品手織の能州紬（織物）を製造、能登の自然の美しさと共に全国へすばらしき製品を広めているのは、門前町千代にある織元絲藝苑である。

絲藝苑の誕生

絲藝苑主宰上島洋山さんは、京都西陣のご出身、本来ならば西陣の隆盛にご尽力される方であるが、三十数年前、門前町出身で京都で活躍されている方の帰郷に同行された折、日本海に沈む夕日の素晴らしさ、能登の自然の美しさに感動され、更にその夜、初めて会った町長さんと意気投



能州紬は海草で地染めされたものに草木染めが加えられ、環境に優しい仕上がりとされている。

能州紬はすべて手づくりである。織りは昔ながらの木製機で、織る人の心を込めた手捌きが風合となつて、一品一品同じものが全くなく、温もりのある製品となっている。特に能州紬を特徴づけているのは、糸の二度染めにある。即ち最初に糸を海草の煮汁で染め、次いで草木染めでいろいろな色に仕上げている。特に海草染めは、上島洋山さん



図柄の裏地に縫い糸が出ず、表裏同柄に織り上がる「手織織り」も能州紬の特徴。

能州紬の特徴

合し、町長さんから洗練された西陣の技術でもつて、この地に昔からある機を復活し町の振興に協力してほしいと要請され、その後織物の指導に度々訪れ、遂に定住するようになり、能登の自然をふんだんに取り入れた作品を作り上げ、これを能州紬と命名し、広く全国に知らしめている。

新たな挑戦

第三のチャレンジは、全国の伝統織物関連業者を一堂に集めたサミットを、この門前町で開催することである。昨年第一回のサミットが沖縄県南風原町で行われ、本年は米沢市で行われる予定であり、門前町には能登空港開港の平成十五年の予定となっている。この会合を意義あるものにし、全国の伝統織物の振興に役立てるため、同志への働きかけや広報等準備を着々と進めている。

むすび

二十一世紀は自然との共生



独自の技術で新しい伝統産業を興した上島洋山さん。

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会をお訪ねください。

TEL 〇七六八 四三一 一五四

千代三二 一六

石川県鳳至郡門前町

〒九二七 二三五一

絲藝苑

(お問い合わせ)

たい。

さる企業であり、石川の誇りである。そして主宰上島洋山さんは能登の恩人といえよう。ますますの発展を期待し

ばかりである。

時、能登の自然を紹介されている姿勢には唯唯頭が下がるばかりである。

の世紀といわれる。二十世紀の文明が自然の破壊の上に展開されたのに対し、新世紀はその反省に立って人間らしさの復興を求める世紀といわれている。絲藝苑主宰上島洋山さんは大量生産・大量販売が主流となった時代、敢えて手づくり本もの志向の道を行き、自然がもたらす数々の恩恵を活かす姿勢こそ新世紀を生きる姿勢といえよう。そして能登の人々の優しさを手織りの紬織りで再現し、地場産業のない地に独自の技術で新しき伝統的な産業を興し、同時に能登の自然を紹介されている姿勢には唯唯頭が下がるばかりである。